

# 金沢市立泉中学校

【はじめに】

本校は金沢市の中心部に位置し、昭和22年4月に開校した。全校生徒は401名、教職員は30名である。

校区には、歴史ある寺町寺院群、にし茶屋街などの伝統的まちなみ、金沢仏壇、水引、九谷焼、和菓子など金沢の伝統文化が息づく野町校区、文教地区の弥生校区、更に近世の入り組んだ道筋が残る中村町校区があり、金沢に見られるさまざまな特色を併せ持った地域である。

2010年ユネスコスクールの認定を受け、環境教育や伝統文化教育、国際理解教育を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

## 「ともに生きる」

～「関わり」、「つながり」を学ぶ3年間のとりくみ～

### 1 ユネスコスクールとしての取組

泉中学校では総合的な学習の時間をIT（泉タイム）と呼称し、3年間で6つの学習テーマに分けて学習している。「身のまわりの自然」に始まり、「地域」、「日本」、「世界」へと学習範囲を広げながら、自身との関わりを見つめ、「自分を取りまく社会全体」に関するテーマ学習へと続く、一貫した流れで実践している。ITの実施にあたっては、体験学習や探究活動を積極的に取り入れ、自然環境や社会との「関わり」「つながり」を学び、持続発展可能な社会の担い手の育成を目指している。

#### 1 年

- I 期＜自然とともに＞
- ・情報の調べ方、まとめ方の学習
  - ・テーマ別校外学習
  - ・まとめ、発表
- II 期＜金沢を知ろう＞
- ・伝統芸能の調査、体験、発表

#### 2 年

- II 期＜金沢を知ろう＞
- ・金沢自主研修
  - ・金沢の文化的景観
- III 期＜人とともに＞
- ・キャリア体験
  - ・まとめ、発表
- IV 期＜日本を知ろう＞
- ・関西テーマ別調査
  - ・プラン作成

#### 3 年

- IV 期＜日本を知ろう＞
- ・修学旅行
- V 期＜世界を知ろう＞
- ・国際理解講座
  - ・まとめ、発表
- VI 期＜社会とともに＞
- ・テーマ別学習、発表

#### I 期 自然とともに

自然体験学習として、身近な環境問題やエコ活動について考える機会を設けた。その後、班ごとに「水」「生き物」「エネルギー」「森林」「食べ物」の5つのテーマ別に分かれ、自分の課題を設定した。この課題解決に向け、関連施設を訪問し、見学、職員へのインタビューを行った。生徒は環境に関する問題解決に向けた実際の取組やその方向性を深く理解することができた。学習の成果を新聞形式でまとめ、掲示発表を行った。



#### II 期 金沢を知ろう

1年生は、ふるさと学習のスタートとして、「伝統芸能」について各自が調べ、クラス発表を行った。また、伝統芸能体験として「加賀万歳」を体験・見学し、地域で育まれてきた芸能についての理解を深めることができた。

2年生は、伝統工芸体験を取り入れた市内班別自主研修を行った。生徒自らテーマに沿った課題解決のための見学地を決定し、班ごとに協力して計画を立て、インタビューや見学を実施した。この研修の成果をスライドにまとめ、発表会を行った。これにより金沢の文化的景観や伝統工芸などを知ることができ、金沢の魅力の再発見につながった。



### Ⅲ期 人とともに

キャリア体験の事前学習として社会で活躍する職業人を招いての講演会を行い、地域密着型や世界で幅広く活躍する職業人の考えに触れることで、職業観や勤労観を高めた。キャリア体験当日はとまどいながらも、地域で働く人々とふれあい、地域社会の営みについて知ることができた。また、自分の進路を考える上でよい機会となった。学習成果はレポートにまとめ、掲示し全体で共有した。



### Ⅳ期 日本を知ろう

Ⅱ期で学んだ金沢の文化・伝統工芸・まちなみなどと比較しながら、視野を広げ、日本の伝統を色濃く残す京都や日本の商都大阪について学習した。そして、修学旅行での見学候補地や企業についての調査を行い、それをもとに京都班別自主研修のモデルプランを作成した。

3年生は修学旅行において、前年度作成したモデルプランを活かした京都班別研修を皮切りに、京都、大阪、奈良を回った。学習内容は旅行記という形でまとめた。2泊3日の旅行を通して、現代に残る日本独自の文化、伝統に直接ふれ、金沢との比較を多角的に行って、考察を深めることができた。



### Ⅴ期 世界を知ろう

国際理解講座としてアメリカ・イギリス・フランス・ベルギー・中国・韓国の6カ国の方々を講師として招き、Ⅳ期の学習テーマであった「食文化」「まちなみ・歴史」「伝統工芸」「伝統芸能」について各国の事情を学んだ。日本では受け入れられている伝統の継承について、伝統に固執しない国があることに驚きを持つと共に、世界の多様性についての興味関心を深めることができた。



### Ⅵ期 社会とともに

3年間「ともに生きる」という視点で学んできたITの学習の集大成として、交流拠点都市を目指す金沢について考えた。金沢がさらなる魅力を獲得するためには何が必要なのか、市政でも取り上げられている「まちづくり」「ひとづくり」「ものづくり」「環境づくり」「絆づくり」「魅力づくり」「くらしづくり」をテーマに各グループで検討し、金沢市への提言という形で発表した。発表は授業参観の日に学級ごとに実施し、多数の保護者の方にも参観していただいた。



## 2 成果と課題

### (1) ユネスコスクールのテーマについて

さまざまな体験活動や探究活動、講演会を通して、学習テーマと自分との関係をより深くとらえることができた。特に3年の研究発表では金沢の観光政策や防災対策など、社会的な問題を身近なものとしてとらえており、設定した課題についての情報をまとめる作業にとどまらず、自らの考えを提言するなど、社会を構成する一員としての自覚の高まりが見られた。

### (2) カリキュラムの作成上の工夫等について

6期それぞれのテーマをより深く探究するために、言語活動や体験活動を積極的に取り入れることで、他者とのつながりや地域とのつながりの中で学び、多様な価値観を育むことができた。生徒は多くの課題解決をしていく中で、さまざまなスキルを身につけることができた。その結果、コミュニケーション力や資料を分析し活用する力、学習成果を効果的に表現する力等の向上が見られた。

### (3) 他校への情報の発信、ネットワークづくりについて

学校ホームページへの掲載や保護者を招いての発表会など、地域に向けての情報の発信を主とした。また、校外学習等をデジタルカメラや動画で電子データという形で保存・編集し、まとめや発表会で活用した。今後はIT機器を活用した他校との連携も行っていきたい。